

派ですよ～、とフランス政府、フランス国民へ痛烈に批判し訴えた。

史実の王は「遍歴の王」とあだ名されたカルロス 1 世、戦争に明け暮れ、人民を殺戮、領土を拡張してゆく欲望の王である。

歴史上の人物、事件をユゴーは脚色しストーリーを作り上げたが、当時フランス文学界では＜古典主義かロマン主義か＞で大揺れの真っ只中にあり、「エルナーニ」公演劇場が、さながら戦場の有様を呈した。所謂「エルナーニ事件」である。ユゴーはフランス・ロマン派の先頭に立ち、ロマン主義の路線を引いた事は有名な話である。

ヴェルディ、フランチェスコ・マリア・ピアヴェによる「エルナーニ」主な登場人物

エルナーニ・・・今は反逆者の群れの頭目になっているが前史がある。彼はアラゴンのサラゴサに住む大公爵の息子ドン・ジョヴァンニである。(第 3 幕で語る)スペイン 2 大王国カスティーリャ、アラゴンは 1479 年スペイン国家として統一、ドン・カルロ＝カルロス 1 世が統治している。旧アラゴン国の一領主であった父親が政変に巻き込まれドン・カルロ＝カルロス 1 世の父親に殺される。息子エルナーニは復讐を誓って反逆者、山賊の群れに入っている。エルヴィーラとはサラゴサ時代から相思相愛の仲。・・・ドラマティック・テノール

エルヴィーラ・・・アラゴン王国の血をひく貴族の家柄に生まれ、シルヴァの姪である。エルナーニとは相思相愛の仲だったが、エルヴィーラの父親の死後、シルヴァはエルヴィーラを嫁として迎え、その家系の人々をも、シルヴァが後見人として迎え入れる準備が整っていたがドン・カルロ＝カルロス 1 世の横恋慕にあい、彼女の争奪戦が男性三人で繰り広げられる。ソプラノ・ドラマティコ・ダジリタ

ドン・カルロ・・・エルヴィーラに一目惚れ。彼女が反逆者エルナーニと相愛の関係にあることも知っているが権力で愛を成就させる。しかし国王ドン・カルロ＝カルロス 1 世が神聖ローマ帝国皇帝＝カルロス 5 世となり、反逆者、エルナーニ達を解放、許す慈悲深い皇帝となる。そしてエルナーニ、エルヴィーラの結婚を許す。しかし、そこへシルヴァが来る・・・

バリトン、リリコ・ドラマティコ (所謂ヴェルディ・バリトン)

ドン・ルイ・ゴメツ・デ・シルヴァ・・・アラゴン王国の一部を領有する大公(スペイン統一後の称号で最高位のもの)で、エルヴィーラを嫁に、一族をも傘下に入れる、一石二鳥を目論む。ある時、シルヴァは恋敵エルナーニの窮地を助けるが、この信義に対してエルナー